

通信



SL 銀河「復興の火」釜石駅から花巻駅に出発

目 次

- | | | |
|--|-----------------|---------|
| ●表紙写真 | | 1 P |
| ●「動物愛護にかかわった20年」動物いのちの会いわて 代表 下机 都美子さん | | 2 P～5 P |
| ●「戦争体験を掘り起こし 記録する活動に参加して」(第2回) | | 5 P～6 P |
| 釜石・戦争を記録する会代表、宮古・下閉伊地域の戦争を記録する会 代表 前川 慧一さん | | |
| ●地名の話24(いいおかたて【飯岡館】) | 高橋 宏壽さん | 6 P |
| ●コロナ感染問題 第3報 | ケンジ ステファン スズキさん | 7 P～8 P |

NPO法人
岩手地域総合研究所

岩手県盛岡市中央通二丁目8番21号 Mホール
Tel・Fax:019-624-6715
メール:i-chiikisouken@salsa.ocn.ne.jp

動物愛護にかかわった20年

動物いのちの会いわて

代表 下机 都美子 さん

一匹の猫との出会いから

2000年の冬、盛岡の高松の池で一匹の猫と出会いました。白いその猫は薄汚れていて私が持っていた白鳥の餌のパン切れをじつと見つめていました。

こんなパンの耳でいいのかなと思いがら差し出すとさっとくわえ立ち去ってしまいました。この時、妙に心が騒ぎなんか関わってしまったかなという予感がしました。

案の定、お節介な私は翌日からその猫が気になって気になって毎日のように昼休みの高松の池通いが始まりました。

以前は誰かに飼われ可愛がられていたと思うこの猫が廃屋で仔猫を抱え明日の餌も無い必死の暮らしをしているのはなぜか、迷子か捨てられたのかはわかりません。

しかしこの時、今まで巷で沢山の野良猫を見かけてきたのに何故かこの親子が気になって仕方ありませんでした。

動物たちが住処をなくし生きるのに必死である姿は、人間の身勝手が生み出した結果であり犬や猫の責任ではない、自分で飼い主

を選べない言葉も発することもできない動



物たちをペットとして飼ったからには飼い主は責任を持たなければならぬはず。

、そんな思いから誰かが不幸にした動物を同じ人間の誰かが一匹でも救いたいと2000年9月に6人で「動物いのちの会いわて」という動物保護団体を立ち上げました。

矢巾町に空き家を借り拠点とし、2年後には保健所で殺処分になる犬や猫の引き取りを始め殺処分数を減らすために、迷子動物の抑留期間の延長を請願運動で実現させまし

た。

そしてその年の秋、狂牛病による乳価の暴落で雫石町の酪農家が100匹超の猫と36頭の牛を残して夜逃げをしました。牛36頭は借金の返済にとJAが、私たちは行政の依頼で83匹の猫を引き取りましたがその報道を機に一気に相談や持ち込みが急増し施設は満杯状態になりました。

一匹ずつ飼い主を見つけなければ次を助けられない、打開策として一時預かりボランティアの募集や譲渡会など外部への発信を増やして現在の活動の基礎を築きました。

2009年には雫石町の小岩井農場付近

に施設を移

転しました。



地域にあふれる飼い主のいない猫の対策として盛岡市と連携し住民合意の下での避妊手術や餌の管理を行い野良猫の自然減

につなげる「地域ねこモデル事業」を強め、地域に出向き飼い主への適正飼養の啓発をはじめました。

小学校の校庭の隅に鶏やウサギなど昔はこどもたちで世話をする学校飼育動物が飼われていました。私の母校ではクジャクが飼われており当番の日にクジャクの羽が落ちていけば奪い合いで楽しい時間でした。

それが忙しい教育カリキュラムの中で管理ができない、子どものケガを心配する声がある等からかその数は年々減少し今はほとんど見られませんが。生き物を肌で感じ命を大切にすることの大切なる教育の機会が失われてきた結果として、人の痛みがわかりにくいじめの体質が育まれたのかも知れません。

少しでも動物の命も人の命も同じだよと伝えたくて学校への出前授業も始めました。

動物にも辛い東日本大震災

そして2011年3月の東日本大震災ではこれまでの官民のつながりを生かし、被災動物と飼い主を支援する災害時動物救援本部の一員として物資の配布や犬猫の一時預かり、引き取りに奔走しました。

その後も県獣医師会などと設立した被災動物支援隊いわてで継続支援。被災一年目は

犬54頭、ねこ107匹を保護、ほとんどが飼い主の元に戻るか里親に迎えられました。被災から10年、この間、引き取った被災地の犬やねこの引き取り総数は500匹を超えています。それが終わったわけではありません。年々歳をとり将来不安におちいりながら今も被災地の猫を預かっている方への餌の支援、ペットを抱えながら家賃が年々値上がりする公営住宅を退去せざるを得ない相談など相談内容は変わりますが困難は続いています。

思えばあの震災時、一番は人命だと必死で行方不明者の捜索に当たった関係者や家族、そして72時間が経ったからとペットの支援にきましたなどは決して言えない、張り詰めた空気の中で私たちは犬の鳴き声を頼りに居場所を探してまわりました。大抵は体育館の裏や外のトイレの脇、自転車置き場につながっていました。

一匹ずつ当面預かりますと声をかけても手放す家族はありません、やっと生き延びたもの同士離れたくないその思いで必死にペットを守っていました。そして、やっと仮設住宅ができ、いざ入居となったとき、ペット可能住宅が極端に少なくゼロの自治体もあって泣き泣きペットを手放す人が増えました。その後の公営復興住

宅はさらにペット可能は少なく中には可能でも犬のエレベーター乗車は禁止されるところもあります。毎日の犬散歩を5階まで抱っこで上り下りするのが体力的に無理でペットを手放した人もいました。

諸外国では仮設住宅でのペット持ち込みは当たり前で、仮設住宅の在庫キットはペット仕様バージョンが最初から備蓄されていて屋根の色で見分けられます。さらに当然の配慮として仮設の設置場所もペット同伴と一般が区切られ避難先でペットを手放すこともトラブルになることもありません。

日本は東日本大震災の福島のように避難時に動物の同伴を拒否されるような現状で、その後、国は愛護団体などの働きかけでペット同行避難を奨励するように改正されました。

しかし同行避難した先でのペットの管理は飼い主が行うという内容で、避難所に連れて行って一体何処で個人が管理できるのでしょうか。

災害時のペット同行避難を明記したのは、一歩前進とはいえ福島でたくさんさんのペットが取り残された現実を見れば、まだまだ十分で教訓は全く生かされていません。

多頭飼育と高齢者の飼育放棄

もう一つ今大きな社会問題になっているのが、猫や犬の多頭飼育と高齢者や生活困難者の飼育放棄です。

多頭とは10匹以上を言いますが猫は不妊手術を行わないで放置した場合、年2回4〜



5匹出産するので2年を待たず多頭に陥りねずみ算で増えていきま

す。この間の動物愛護に関する法律の改正で飼い主責任が明確になり、責任を負えない飼い方をし

て増やした動物について保健所は引き取りを拒否できることになりました。

その結果保健所による引き取り総数が半減し殺処分数も減少。国が目指す殺処分ゼロの達成が各地で増えてきました。

しかし、表向き保健所の殺処分がゼロになっても大きな意味がありません。巷の野良猫、虐待や多頭飼育で苦しんでいる動物たちが救われたわけではないのです。



経済的に苦しく不妊手術ができない、高齢者でペットの世話ができない、可哀想だと野良猫に餌をあげたら増えてしまった、このような案件はほとんど保健所の引き取り事

案にはなりません。

高齢の一人暮らしの方が増え寂しくてペットを飼っても面倒が見られなくなる、介護施設に入居が決まっても動物の引き取り先が見つからないというケースが多く、相談が連日のように寄せられどの愛護団体も限界が来ています。

岩手県は数少ない動物愛護センターの無い県で、一昨年から盛岡の岩山にある動物公園に隣接して建設されることで進められています。今の課題を解決するためにはどんな愛護センターをどこにつくるかが大事な委託事業ではなく、市民が積極的に係われる場所と仕組みの構築が大事です。

全国的には既に建て替え移転している自治体も多く、公害型から町中へ市民パワーを

活用するスタイルが変わってきています。

コロナ禍での悲劇

直近で悩ましいのが、世界中で猛威を振るっている新型コロナの影響で急激なペットブームになっていることです。引きこもった暮らしでつい飼ってしまったが、もう飽きたとか仔犬が思ったより大きくなりすぎたなどというところでもない引き取り依頼が増えています。

動物は物ではありません。心も感情もしっかり持って飼い主に好かれようと従順に暮らす生き物です。ペットショップなどでペットの意思に関係なく選ばれた飼い主の元で暮らすしかないのです。

そんなことを日々考えながらこの動物愛護の分野での活動を20年続けてきました。

おわりに

辞めたいと何度も思ったものの生き物を預かる以上途中で投げ出すことはできないの一念でここまでできました。

2000年に会を設立してから20年、保護し新しい家族に引き渡した数は5500匹になりました。現在300坪の敷地に診療所も建設し犬、猫併せて200匹。一時預かり

家庭に100匹の保護動物を抱え雇用9人とボランティアが世話を受け持つて会を維持しています。



財政の支えは
会員7000
人の年会費と
寄付や物資支
援で賄ってき
ました。

何度かの大病を患いなが

この先の生きられる長さを考えたとき、今やりたいことを諦めたくない仕事とボランティア活動を同時に続け、振り返れば周りや家族にどんなにか迷惑や苦勞、心配を掛けたかと最近思うようになりました。

これまで信じた道を歩んでこられたのは、どんどん広がる支援の輪と、その都度助け協力してくれた行政や獣医師会のキーパーソンとの出会い、そして何より動物たちが譲渡先で幸せに暮らす様子を見たときの喜びに支えられてきたからだと思う。

夢を語ることで仲間が増え、夢を語ることで目標ができ、夢がいつか形になってゆく。これから先は後身に道を譲り動物たちをゆつくり眺めて暮らせたなら幸せだと思ふ。

投稿

戦争体験を掘り起こし
記録する活動に参加して(第2回)

釜石・戦争を記録する会代表

宮古・下閉伊地域の戦争を記録する会

代表 前川 慧一さん

体験集「戦争の時代を生きて」(発行 宮古・下閉伊地域の戦争を記録する会)に寄せられた体験の主な内容

第1集(2016・12・8発行)

○戦時中の「欲しがりません、勝つまでは」の合言葉のもとでの最大の憧れは、白いお米のご飯だった。愛馬は軍馬として、愛犬は軍用犬として戦争にとられた。東日本大震災の被災者には食料、衣類など生活必需品が配給された。戦争と平和の時代の両極端の違いを思い知らされた。

○戦争が負けているのに、新聞もラジオも「勝っている」「勝っている」と国民を欺いてきた。

○B29に竹槍訓練をさせられ、それを馬鹿

らしいと思っても、それを口に出せば「非国民」とされた。

○南方の島々での日本兵は、武器、弾薬、食料が尽き果て、蛇、蛙を食べながらろうじて生きたが、多くの兵士が餓死した。

○沖縄の戦争で「生きて虜囚の辱めを受けず」(戦陣訓)のために、断崖絶壁から海に飛び込まされ、自決させられた父の無念の思い、口惜しさ・・・等17人

第2集(2017・12・8発行)

○兄は志願して海軍に入隊したが、家族との2回の面会后、戦死の知らせを受けた。骨箱には形見の爪だけが入っていた。前もって爪を切って残していたのか。川での魚とり遊びをした頃を思い出し泣けてくる。

○中学校3年生の昭和20年8月15日、校庭に整列し、天皇陛下の「玉音放送」聞いた。

教頭先生の説明で「戦争に負けた」ことを知った。悲愴感はなく、「ぼっと」したことを覚えていて。18歳で志願兵となり沖縄で戦死した兄、宮古空襲で焼け出され、食糧難のもと必死に生きてきた戦後を思い、あの戦争はなんだったのかを考える。

東日本大震災津波 10年のつどい

震災から10年の総括と地域の将来を語る

日時 4月25日(日) 13:00~15:15

会場 陸前高田市民文化会館・奇跡の一本松ホール

●シンポジウム 13:15~15:00

パネリスト

阿部 勝さん(陸前高田市地域振興部長)

熊谷正文さん((株)高田松原代表取締役社長)

宮本妃菜さん(ロッツ(株)心理相談員)

安田留美さん(陸前高田市社会福祉協議会事務局次長)

コーディネーター

井上博夫さん(岩手地域総合研究所理事長)

○入隊の出発の朝には、3・3・9度の「お祝い」の杯が用意され、私は軍服姿の兄へお酒を飲みほしたのか、思い出すと胸が痛む。その出征兵士の遺骨はいまだ帰ってこない・・・等12人

地名の話 24

高橋 宏 壽 さん

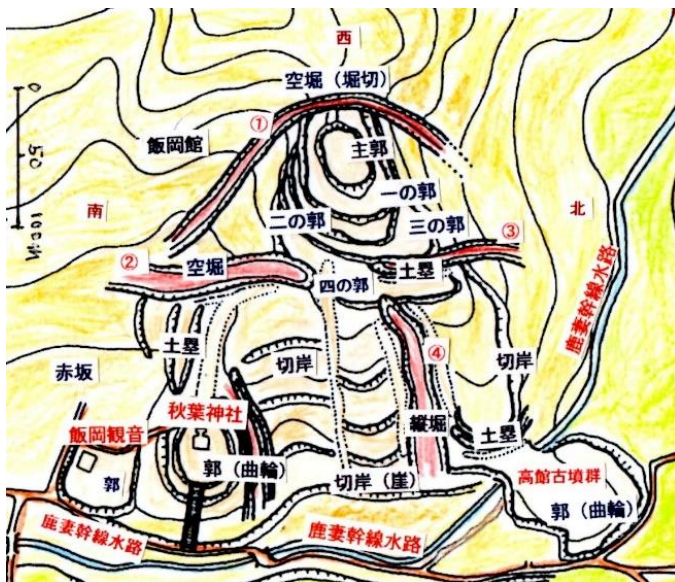
いいおかたて【飯岡館】盛岡市上飯岡

下図の「飯岡館の縄張り」は、『岩手県中世城跡分布調査報告書』の原図に着色し、『戦国の城を歩く』を参照して、番号をつけ、防御施設に名前をつけたものです。

飯岡山(358m)の北東にのびる尾根の中腹(200m)にある飯岡館の主郭(シユカク)は背後の尾根を空堀①で遮断し、その下に一の郭から四の郭まで階段状につくっているが、さらに主郭部分を防備するように左右や下から幅の広い空堀②③④を掘っている。②の空堀は幅15mもある大型であった。またそこから下へ数段の郭(クルワ)と切岸(キリギシ 崖)がつづき、ふもとへ張り出した高館古墳群・秋葉神社・飯岡観音などの郭(曲輪)へとのびている。この三つの郭(曲輪)は標高150mの等高線に沿い、その下を通る鹿妻幹線水路は標高130mであるからその間は比高20mの急な崖となっている。そしてこれらの空堀・郭(曲輪)・切岸(崖)・土塁(ドレイ)・平地(ヘイチ)などの防御施設は領民の労働による工事であったが、兵乱が迫れば彼らの避難

所も兼ねていた。

飯岡館の地頭(領主)飯岡氏は紫波町城山(高水寺城)の斯波氏の家臣で、元亀3年(1572)3月、南下する三戸南部勢と合戦し落城したという(『都南村誌』)。その年、徳川家康は三方ヶ原で武田信玄の軍勢に大敗している。戦国争乱に際会した飯岡館も防御をきびしくし、事態に対処した城館であった。



コロナ感染問題 第3報

2021年1月31日

ケンジ ステファン スズキ さん

(Kenji Stefan Suzuki、日本名：鈴木健司、1944年生まれ)

略歴 社会起業家、環境活動家。

S. R. A. Denmark 代表、風のがっこう代

表、風車運営会社2社の代表。現在デンマーク在住だが、年に数回来日し、講演活動などを精力的に行なっている。

1. ミンク農家への補償について

「風のがっこう便り2020年」において、コロナ感染問題を理由として、デンマーク政府・議会は2020年11月4日、全てのミンクを殺処分することを決めたことについて触れました。そしてそのミンク農家への補償について、今年(2021年)1月25日、与野党間*で取決めがありました。そのことについてお知らせします。

*政府与党 (Socialdemokratiet) 野党 (Venstre、De Radikale, SF, Liberal Alliance)

補償額の査定根拠として…(1クローネは日本円で約17円)

①ミンク農家一戸当たりの子取り用ミンク数2, 670匹とし、これらのミンク(親)から生産した毛皮の質は標準とする。

②2020年に殺処分した毛皮1枚の値段を160〜250クローネに査定し、将来における売値を333クローネに査定。

③ミンク農家の平均的生産単価及び資本財(ミンク小屋、かご*、機器、工具)の残り使用年数を15年とする。*ミンクという動物は集団で飼うことが出来ないため、ミンク1匹毎に金網のかご(Cage)の中で肥育している。

④上記を基に、ミンク農家1戸当たりへの平均的補償額は*…

・殺処分代 270万クローネから410万クローネ

・将来(2030年を限度)減収入額分760万クローネ

・資本財への補償額130万クローネ

・よって、1戸当たりへの補償額は1, 160万クローネから1, 300万クローネになると見込んでいます。一方でミンク農家1戸当たりの借入金平均残高は870万クローネからして、補償額の多くは借金の返済に充てられると見ています。

*デンマークの政府与野党間で取決めしたミンク農家への補償策はEUの認可を得る必要があり、その認可を待って、農家別に補償査定に当たり、そのことで、支給される補償額はミンク農家毎によって違いが出てくるようです。

デンマーク政府・議会が計上した、上記ミンク農家への補償総額は約188億クローネ(円換算で約3, 200億円)を見込んでいます。ということはデンマークの人口約584万人からして、一人当たりのミンクへの補償額は約3, 200クローネ(約54, 000円)となり、税金からの負担とは言え、負担額の大きさが解ります。

2. デンマークのコロナ感染による業界への支援金について

デンマークのミンクへの補償金額については上記の通りですが、その他の業界に支払われた支援金額について、2021年1月25日時点での数値を見ますと以下の通りです。

- ① 給与への支援金額…128億8600万クローネ
 - ② 自由業者への支援額…60億4500万クローネ
 - ③ フリーランス業への支援額…1億200万クローネ
 - ④ 興業業界などへの支援額…2億1900万クローネ
 - ⑤ 固定費支援額…77億8000万クローネ
 - ⑥ 季節事業主への支援額…900万クローネ
- ①から⑥までの総額計**270億4100万クローネ**

デンマークのコロナ感染によって発生した負担額は、今の所ミンク生産農家への補

償額と各種業界への支援金を合わせますと188+270.41=458億4100万クローネ(約7,800億円)という金額になります。デンマーク政府・議会はコロナ感染者数を抑さえ、一日も早く正常は経済活動を戻したいとしているのは、コロナ感染による経済的負担を減らしたいためです。

3、コロナ感染者数などについて

一方、デンマークのコロナ感染者数は今月(2021年1月)初めに比べ、減ってきていますが、それでも隣接する国々の感染者数が多いことから、デンマーク人の国内での移動制限、5人以上の集会の禁止、レストランや飲食店閉鎖などの他、国外への渡航はほぼ禁止状態になっています。その背景には、ヨーロッパ諸国内においても感染者数が多く、国外からコロナ菌が入りこむことを規制するためです。因みに、世界における一日当たりのコロナ感染者数の推移では、2020年1月21日282人から1年後の2021年1月23日では60,790人と増えました。コロナ感染者が減らない理由の一つには、コロナ菌の新たな変形菌(Mutation)が出ているため

です。最初にヨーロッパで発見したコロナ菌から、2020年8月にデンマークでクラスター5と呼ぶ変形が見つかり、2020年9月イギリスでコロナB117型のコロナ菌を発見、このB117の感染度が高く、今日(2021年1月末)デンマークで問題になっているのはこのB117型です。そして2020年10月、南アフリカで発見されたB1351型と呼ばれているコロナ菌で、ヨーロッパに感染者が出たのは2カ月後12月です。そして今年(2021年)1月、ブラジルで発見されたコロナ菌はP1と呼ばれています。このコロナ菌の発覚は、アマゾン周辺から日本に訪れた4人から出たコロナ菌で、その後、韓国、イタリア、ドイツに広がっている、と言われています。

このように、次々新たなコロナの変形が出て来ている中で、感染者の収束を図り、感染者を出さない方法として、仮に経済的負担が一時的に増えるとしても、国民生活を守るためには、デンマーク政府・議会が採り入れた人々の行動を制限し、ワクチンの接種に努める、他に方法は無いのではないかと(筆者は)思っています。